

◆学習のヒント◆ 社会科

遊びながら学べる！？地図の活用方法（その1）

新 谷 和 幸

1 覚えることが多すぎる社会科！それって本当！？

保護者の皆さんに聞きます。お子様の好きな教科ってご存じですか？「好きな教科」です。「できる教科」ではありません。

私が子どもたちに問うと、大抵の場合、社会科！と言いたいところですが、体育と図工に軍配が挙がります。その理由は、体を動かして遊べたり、自分の作りたい物をつくりたりできるからだそうです。では、社会科はどうでしょう。ちょっと好き？それとも、苦手！？。いえいえ、実はびっくりするぐらい、好きな子と苦手な子に分かれます。好きな子は、「今まで気づかなかった社会の仕組みが分かるので楽しい」「色んな物が出てきて、調べながら疑問を解決するのでおもしろい」と言います。一方、苦手な子は口を揃えて「覚えることがたくさんあって難しい」と答えます。実はここに社会科が好きになるか苦手になるかのヒントが隠されています。

社会科は、ご存じの通り、学習する上で沢山の単語が登場します。例えば5年生「水産業」の単元では、教科書だけでも、かつお・まぐろ・さば等の魚の名前、巻きあみ漁・一本釣り・刺し網等の漁法、暖流寒流の名称、地名、漁獲高、水産物輸入量等…、挙げればきりがありません。苦手な子は、これらの単語をそのまま暗記しようとし、それではつらいばかりです。

では、好きだという子はどのようにしているのでしょうか？その多くは、授業で出てくる言葉を覚えようとするのではなく、それを情報として活用しながら、そこから読み取れる社会の因果関係や仕組みを見出し、それを知識として習得しているのです。学習を行う際、我々社会科教師は、学習問題を提示します。それは「魚の名前や漁法には何があるか覚えましょう」というものでなく、「なぜ、カツオ漁には、2つの漁法があるのだろうか？」など、答えが単語でなく、説明しないと表現できない問題を提示します。実際カツオ漁は、大別すると、漁獲量は少ないが魚の質を一番に考えた一本釣りと、魚の質は劣るが大量に獲得できる巻き網漁の2種類があります。一本づりでとれた魚は刺身に、巻き網でとれた魚は鱈節やシーチキン等、加工品に使われます。つまり、2つ漁法が存在する背景には、私たちの食文化や、鮮度や安さといった多様な消費者ニーズと関係があるのです。

このような社会の関連性を表す知識は、他の単元でも応用することができます。例えば、先ほどの知識であれば、魚沼産コシヒカリなどのブランド米が存在する理由の1つにも挙げるこ



【図1 カツオの2つの漁法】

とができます。私たちは知識というと、つい単語としての言葉だけをイメージしてしまいます。ですがそこに意味が生じないとなかなか覚えられません。言葉と言葉を関連づけて構成された、説明的であったり概念的であったりする内容、これこそ、社会の見方や考え方を広げる社会科の授業で習得すべき重要な知識です。

よく授業中、黒板に書かれたことを一生懸命ノートに丸写して単語を覚えようとする子がいます。ですがそれよりも、授業の中でたくさん友達の見聞を聞き、自分の考えを述べ、それらの情報を活用して、本当に身につけておくべき知識を獲得する事の方が大事です。もちろん、全く単語を覚えなくてもよいということではありません。海流名や地形名、地名等は、重要なものを精選して覚えておく必要があります。

2 いまさら地図、されど地図！～場所を調べるためだけに使っていませんか～

前置きが長くなりましたが、「遊びながら学べる！？地図の活用方法」と題してこれから何回かに分け、実際に授業で行った実践を紹介していきます。

「地図」と聞くと、「今の時代、もう古いんじゃないの？」と思われる方もいるかも知れません。一昔前、マイカーでの旅行といえば地図は欠かせない存在でしたが、今やカーナビの時代。ですがそのカーナビゲーションに表示されている画面も実は地図です。現在も駅の周辺図、お店のパンフレット等、様々なところに地図は用いられています。本校では、3年生で広島市・県の地図、4年生から地図帳を用いて社会の授業を行います。

ところで皆さんが小学生の頃、地図は何のために使っていましたか？多くは、社会の授業で出てくる都市の位置を確認する際に使われたことでしょうか。例えば5年生自動車工場の学習で、豊田市の位置やそこに自動車工場を表す記号が沢山あることを確認したり、6年生の鉄砲伝来のときに種子島の位置を調べたりする活動です。でも、それだけでは本当の意味で地図を活用したことはなりません。地図には、土地の特産物や有名な産業、線路や道路、土地の高低など、沢山の情報が含まれているからです。位置の確認だけでは、それこそ前述したように単純な知識として記憶するのみに止まります。もう少し周辺に目を配ると色々な事が見えてきます。先程の豊田市で言えば、大消費地名古屋市、そこ豊田市を繋げる鉄道の存在、川が近くにあり全国有数の農作地帯濃尾平野付近に位置しながら豊田市周辺に農業が栄えていない点、名古屋港や中京工業地帯の存在。これらを読み取ることで、トヨタ自動車がこの地に誕生した理由を、地図の情報から捉えたり予想したりすることもできます。



【図2 豊田市周辺の地図】

地図は、位置を確認する一面的な見方でなく、多面的に活用していくことで、資料活用能力や思考力育成にもつながる重要なツールとなります。紙面が尽きました。次回は、地図を使って遊びながら学ぶ実践を紹介します。

【引用・参考文献】

岩田一彦他、『新編新しい社会科5上』、東京書籍、2005、p23.

寺本潔他、『楽しく学ぶ小学生の地図4・5・6年初訂版』2005、p33.